

「心のアドベンチャー」を活かした学級集団づくり

～ 「プロジェクト・アドベンチャー」を試してみませんか ～

児童生徒の自己理解・他者理解を深めたり、コミュニケーション能力を高めたり、人間関係づくりを促進させるために、構成的グループ・エンカウンター(SGE)やソーシャル・スキル・トレーニング(SST)、アサーション・トレーニング等の活動を取り入れる先生方が多くなりました。また、近頃では、集団としての連帯感や協調性を高めることができる「プロジェクト・アドベンチャー」も注目されてきています。今回は、児童生徒が、集団としての一体感を味わいながら、安心して意欲的に活動できる学級づくりの取組み例を、中学校を想定して紹介します。

2年C組のある日の授業

A中学校は、観光産業を主とした小さな市にある、学年4クラスの学校です。

音楽室では、2年C組が、1か月後の文化祭に向けて合唱の練習をしています。しかし、彩先生(35歳)のピアノに合わせて歌っている生徒は半数ぐらいしかいません。女子3人は音楽室の後ろの隅に座り込んで話し込んでいますし、4時間目の英語のテストの勉強をしている生徒も数名います。授業が始まって15分が過ぎたころ、隆男と宏之が悪びれる様子もなく入って来ました。この二人は生活態度や服装などで、たびたび指導を受けている生徒です。彩先生は二人をチラッと見ただけで、ピアノを弾き続けました。「注意しても言うことを聞くはずはないし、今は自分の周りで歌っているこの子たちのために、ピアノに集中しよう」と、叱りたくてたまらない気持ちを、「グッ」と胸の中に押し込めました。

彩先生は、授業を終えるとすぐに、2年C組担任の博先生(32歳・保健体育)に、授業の様子を報告しました。他の先生からも同じような苦情を受けていた博先生は、「またか...」という思いを抱きながら、彩先生と一緒に学年主任

の明先生(42歳・数学)に相談しました。

彩T;最近、C組は授業になりません。この前、博先生にも相談したんですけど、どんどん乱れていく一方で.....。

博T;男の先生とか厳しい先生の時は、おとなしくしてるみたいなんですけど、叱らない先生のおときは.....。

明T;そうか.....。でも、大切なのは、生徒たちが、自分で自分を律することができるようになることだから、単に厳しくすればいい、というわけじゃないよな。

博T;何か、いい方法はないでしょうか。

明T;うん.....。そういえば、健先生(40歳・理科)が、何かの研修会に行って「学級づくりに使えそう」って言ってたっけ。健先生にも相談してみるか。



健T ; はい、あれは「プロジェクト・アドベンチャー(PA)」の研修会だったんです。PAをやることで学級の一体感と言うか雰囲気盛り上がります。それから、グループ・エンカウンターのように、「雰囲気づくり 主活動 振り返り」の順で展開していく途中で、「その時間のルールを自分たちで決める」という活動があるんです。それをうまく生かすことで、「節度ある学級づくり」ができるんじゃないかと思うんです。ちょうど今、授業案を考えていたところです。お手伝いしますから、博先生もやってみませんか？

博T ; ぜひ、お願いします。

授業『みんなでチャレンジ!』

博T ; 今日は、健先生と彩先生に手伝ってもらって、『みんなでチャレンジ!』という活動をします。詳しくは後で話します。

まずはウォーミングアップ。先生と、じゃんけんをしましょう。先生と同じものを出せた人はクリア。違った人は、同じのを出せるまで終われません。じゃ、いくよ、ジャン、ケーン、ポン。

生徒たち ; (じゃんけんをし、「あいこだ」と言っ
て喜んだり、「勝っちゃった」と言っ
て不満そうな表情をしたり、やる気がな
いという態度を示したり、.....)

博T ; 2回目いくよ。ジャンケン、ポン。

生徒たち ; (2回目、3回目、4回目と、だん
だん盛り上がる)

隆男 ; えー、残ってんの、オレと宏之だけって、
マジかよ……。ジャンケンポン、.....
やっと合った。

博T ; はい、全員クリアしました。次は1対
1で『あいこじゃんけん』をします。最初
は隣同士でじゃんけんして「あいこ」
になったら、親指を立てて「イエイ」っ

て合図する。健先生とやってみるよ。

博T・健T ; (「あいこ」になるまでじゃんけ
んをし、「イエイ」をしてみせる)

博T ; こんな感じです。「イエイ」をしたら、
別な人とじゃんけんして、「あいこ、イ
エイ、って感じ。必ず、「あいこ」にな
るまでやります。何人と「イエイ」でき
るか。2分間だよ。ヨーイ、スタート！
生徒たち ; (一斉に『あいこじゃんけん』)

博T ; はい、そこまで。何人と「イエイ」で
きた？ (生徒とのやり取り)

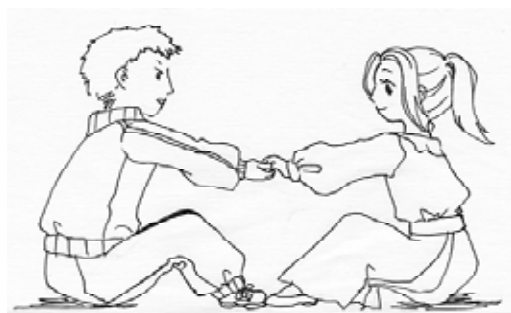
実はね、文化祭まであと1か月ちょっ
となんだけど、みんなのまとまりが「イ
マイチ」かな、って感じてるんだ。それ
で、今日は、クラスの団結力を高めたい
なって思って、『みんなでチャレンジ!』
をしようって思ったんだ。

(黒板にカードを貼る)

博T ; 今日、みんなにチャレンジしてもらうの
は、『トラスト・アップ』です。ちょっ
とやってみるね。彩先生お願いします。

こんなふうに、床に腰を下ろして、足
先を合わせて、手をつないで、「1・2
の3」で一緒に立ち上がるんだけど...。
彩先生、いいですか？

彩T ; (うなずきながら) はい。



博T・彩T ; 1・2の3！ (スツ、と立つ)

生徒たち ; おおー。(拍手)

博T ; 二・三人なら、簡単なんだっけ。

(健先生の方を見ながら) でも、人数が
多いほど、難しくなるんですよね。

健 T ; (ゆっくり、深くうなづく)

博 T ; まじめに気持ちを合わせないと、絶対にできません。だから、やる前に、この課題達成のために「自分が心がけること」と「他の人にされたくないこと」を、一人一人に考えてほしいんです。それを、この紙(クラフト紙2枚を張り合わせたもの)に書き出しておきたいと思うんだ。(床の上に紙を広げる)

だれか、モデルになってくれないかな。この紙の上に、こんなふうに寝転がってほしいんだけど.....。

(自ら寝転がり、ポーズをとる)

ポーズに合わせて、みんなで人型を描きたいんだ。だれか、モデルになって。

隆男 ; やっぱ、ここはオレだよな。

博 T ; お、ありがとう。隆男が「モデルになってくれる」って言ってるけど、みんなは、いいかい？

生徒たち ; はい。

隆男 ; これでどう？ (紙の上でポーズをとる)

博 T と生徒たち ; (隆男のポーズに沿って、太めの顔料ペンで人型を描く)

博 T ; 隆男、サンキュー。

(人型を見て) おー、いい感じだね。

じゃ、次。みんなが考えた「自分が心がけること」を人型の内側に、「他の人にされたくないこと」を外側に、こんなふうに書きます。例えば先生なら、心がけることは「合わせる」で、他の人にされたくないことは「いたずら」だな。

(細い顔料ペンで書く)

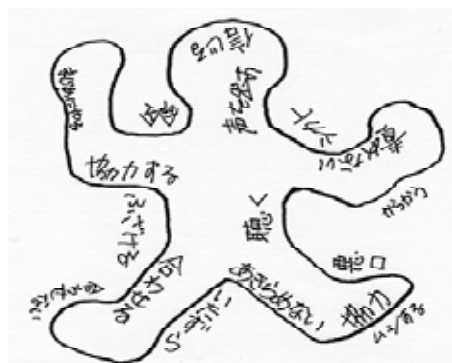
じゃ、みんなも書いてください。好きな色のペンでいいよ。

生徒たち ; (思い思いに書き込む)

博 T ; みんな、書いたかな。じゃ、黒板に貼ってみよう。うん、いっぱい出たねえ。「協力する」か、大事だよな。...この耳偏の

「聴く」って、だれが書いたのかな。これって「よ〜く聞く」というか、「共感する」っていう深い意味なんだよね。

生徒たち ; (うなづく)



博 T ; あとは、「声を出す」、「信じる」、...(すべての「心がけること」を、声を出して確認して)、なるほど。

「されたくないこと」は、どうかな。「ふざける」、「シカト」、「からかう」、.....。うん、うん.....。

(うなづきながら確認する)

[生徒たち] ; (真剣な表情で、目で追う)

博 T ; みんなで作ったこれを『ピーイング』と言います。みんながピーイングに書いたこと、「心がけること」と「されたくないこと」は、この時間のルールだよ。

生徒たち ; (うなづく)

博 T ; それじゃ、いよいよ『トラスト・アップ』に、チャレンジしてみよう。まずは、2人組からスタートだよ。男子同士・女子同士のペアでやってみよう。3人組から始めてもいいよ。

生徒たち ; (ペア・3人組で) 1・2の3!

(簡単にクリアする)

博 T ; はい、2人組・3人組は、全員できたみたいだから、次は近くのペアと合体して、4人組・5人組でやってみよう。(確認してから) はい、どうぞ。

生徒たち ; (ややつまづくものの、すべてのグループがクリアする)

博T ; はーい、OKです。みんな、結構うまく
やってるね。じゃ、今度は、2グループ
ずつ合体してトライしてみよう。

(確認してから) はい、スタート!

生徒たち ; (7人組・8人組になって試みるが、
なかなかうまくいかない)

綾子 ; あれ、なんで立てないの?

聡美 ; えー、力が入らない!

隆男 ; ムリだって、こんなの!

博T ; 手のつなぎ方とか、並び方とか、いろい
ろ工夫してみて。全員の手と足が、途中で
切れずにつながっていればいいんだよ。
グループで作戦を立ててみようか。

生徒たち ; (グループごとに相談する)

俊介 ; あ、そうだ。手を、一人置きでつないだ
らどうかな? つまり、隆男の右手は隣
の隣の彰の左手、彰の右手は隣の隣の良
介の左手、良介の.....

隆男 ; お、いいじゃん。やってみようぜ。

俊介と隆男たちのグループ ; よし、いくぞ!

1・2の3! あー、おいしい! でも、
できそうだよ。よし、もう一回。手、
つないで! いいかい? いち、にーのー
さん! やったあー!

(他のグループも成功し始める)

博T ; みんなすごいね。じゃ、今度は、男子の
グループと女子のグループに分かれて、
どっちが早くできるかやってみよう。男
子は14人、女子は15人だから、条件は
ほとんど同じだよ。

生徒たち ; (男女別にグループになる)

健T・彩T、博T ; (男子グループ、女子グル
ープの活動の様子を分担して見守る)

隆男 ; (男子グループを仕切って) さっき、オ
レたち、こうやったんだ。手を、こうい
うふうにつないで.....

男子グループ ; (一人おきに手をつなく)

隆雄 ; いくぞ、1・2の3!

男子グループ ; (何度か試みるが、ぜんぜんう
まくいかない)

隆男 ; 宏之! ちゃんと立てよな!

健T ; (ピーイングを示しながら) 隆雄、ほら、
これ。ピーイング、「責めない」って、
書いてあるよ。

女子グループ ; (やはり何度か試みるが、うま
くいかないの、相談する)

直美 ; この前、体育で、後ろ向きで丸くなった
よね。あれでやってみようよ。

女子グループ ; そっかあ!

(直美の案のとおり組む)

直美 ; みんな、いい? いくよ、1・2・3!
できた! 先生、できました!

博T ; う~ん.....、でも、足、つながってたか?

直美 ; あ、そうか.....

隆男 ; ムリだつーの! こんなの!

彩T ; (ピーイングを指しながら) ほら、ここ。
「あきらめない」って書いてある。

隆男 ; チェっ。

博T ; えーと、残り10分になっちゃいました。
みんなは、ちょっと納得できないかもしれ
ないけど、「振り返り」をちゃんとした
いので、今日のチャレンジはここまで、
ということにしましょう。

君恵 ; これって、ちゃんとできるんですか?

博T ; うん、実は、この活動、健先生に教えて
もらって、先生たちもやってみました。
先生たちが成功した方法なら、100人
でも1000人でもできます。

隆男 ; うっそだあ!

博T ; (ピーイングを指して) ほら、ここに、
「信じる」。(笑いながら隆男を見る)
ということで、この「トラスト・アップ」
は、みんなができるまでやります。
毎日5分くらい、帰りの会とか、合唱練
習の前がいいかな。みんなは、どうすれ
ばできるか、考えてみてください。

それから、このビーイングは、みんなが成功するまで、教室の中に貼っておきたいと思います。

健T；隆男くん、ビーイング、けっこう守ってたよな。最後までちゃんとやったし。

生徒たち・博T・彩T；(うなずく)

博T；じゃ、机を戻してください。振り返り用紙を配るので、この時間のありのままの気持ちを書いてください。

授業を終えて

博T；健先生、ありがとうございました。

健T；いやいや、昨日の私の授業より、ずっとよかったですよ。

彩T；振り返りの時、鉛筆の音が聞こえましたよね。あの子たちが、あんなにまじめな姿を見せるなんて、感動しちゃいました。

健T；そう、そう。実は、私も、鳥肌が立ちました。

博T；彩先生にも手伝ってもらえて、本当によかったです。合唱の練習に、私も行きますから、始める前に、5分だけください。

彩T；はい。あの子たち、できたときにどんなふうになるんでしょう。楽しみですね。健先生に答えを教えてもらった私たちだって、盛り上がりましたものね。

振り返り用紙(後ページ)の1(1)には、「楽しかった。またやりたい」、「C組がまとまった気がした」等、(2)には「隆男のおかげでビーイングができた」、「直美さんのように自分の意見を堂々と言えるようになりたい」等、(3)には「合唱の練習が楽しみ」、「みんなで頑張れそう」等の記述がありました。また、2の自由記述欄には、隆男の「絶対に成功してみせる!」という記述や、普段は静かな弘美の「ビーイングがよかった。隆男がキレそうなときに、博先生がちゃんと声をかけてくれたのでうれしかった」

という感想の他に、ピンク色のハートや笑顔のテルテル坊主を描いた生徒もいました。

全員の振り返り用紙を読み終えた博先生は、自分の中に新たなエネルギーが湧き上がってくるのを感じていました。

「プロジェクト・アドベンチャー」とは

アメリカの公立高校の先生が「アドベンチャー(冒険活動)によって、お互いが協力し合う雰囲気醸成される」ことに注目してスタートさせた教育手法で、アドベンチャーには「身体を使うアドベンチャー」と「心のアドベンチャー」の二つがあると述べています。

「心のアドベンチャー」とは、「自分が築いてきた自分の考え方を変えること」、具体的には「勇気を出して意見を述べる」、「苦手な人に話しかける」等の行動を指します。今回の活動の中で、隆男がビーイングを破りそうになった時に、彩先生の介入によって行動を修正したことも、「心のアドベンチャー」ですし、それぞれの場面で思考や感情の動きがあれば、そのことが「心のアドベンチャー」であると言えます。

プロジェクト・アドベンチャーの基本的理念と流れ、留意点は次のとおりです。

1 基本的理念

(1) フル・バリュー・コントラクト

「Full Value」=「最大限の評価」を
「Contract」=「契約する」、つまり「最大限の相互尊重」という意味です。反対語は「他者否定」。PAでは、参加者の間で互いの存在や考え、行動が他者から否定されることがありません。

(2) チャレンジ・バイ・チョイス

「選択による挑戦」、すなわち「やるかどうかは自分で決める」という意味です。PAでは、他者から何かをやることを強い

られることはありません。「やってみたがうまくいかなかった」、「やろうとして一歩前に出たが、身体が固まって動かなかった」という時などには、「ナイス・チャレンジ」と声を掛け合い、「チャレンジしたこと・しようとしたこと」を評価し合います。

ビーイングの作成と確認、隆男の言動に応じた先生方の言葉かけ及び最後の健先生の隆男への声かけなどが、この基本理念に当たります。

2 基本的な流れ

(1) アイス・ブレイキング

いわゆる「ウォーミン・グアップ」、「緊張ほぐし」です。次の主活動にスムーズに取り組めるように、集団の雰囲気づくりをし、一人一人の抵抗感を軽減します。

『あいこジャンケン』

(2) インストラクション

この時間にどんな活動を、どんなねらいで、どのようにしてやるのか、について説明します。教師が自らやってみせることで、児童生徒の抵抗感が小さくなります。

博先生たちによるモデリング

(3) アクティビティ

「課題となる活動」です。教師は、適切な励ましの言葉をかけながら、児童生徒の活動を見守ります。他者否定や強要などがあつたときには、介入して活動を中断し、「基本理念」や「ビーイング」を全員で確認してから活動を再開します。

『トラスト・アップ』

(3) 振り返り

「この時間の活動を通して感じたこと・気付いたこと・考えたこと」などについて振り返ります。グループまたは参加者全員で、互いに発表し合い、気付きや感情の共有を図る方法と、「振り返り用紙」を用い

て個人で整理する方法があります。グループや全体での振り返りの後に振り返り用紙を用いることで、気付きをさらに深めることができます。振り返り用紙を用いることで、アフターケアの必要な児童生徒(後述)に気付くこともできます。

3 留意点

(1) 抵抗の大きい児童生徒への配慮

活動に参加しない(参加できない、悪ふざけする)児童生徒には、ペンや用紙の配付、課題ができたかどうかの判定等、教師の手伝いをさせながら、「一緒にやっている感覚」を味わえるようにしたり、オブザーバーとして客観的に観察させ、振り返りの時に感想や気付きを発表させたりします。観察している途中でアイデアを出し、活動に加わることもあります。

発達障がいのある児童生徒がいる場合は、TTで行うなど、必要に応じて個別対応ができるようにしておくことも大切です。

(2) アフター・ケア

ルールを確認しても、からかわれたりして傷つく児童生徒が出てくることもあります。また、うまくできなかった自分を責めたりする児童生徒もいます。

振り返り用紙に書かれた評価が最低であったり、後悔しているような記載がある時にも、個別に話を聴くなど、辛い気持ちを受け止めるなどのかかわりが必要です。

(参考文献)

「だれでもわかるプロジェクトアドベンチャー入門」
Project Adventure Japan 著
pajapan.com/pdf/files/

「グループの力を生かす」 同上 著
「今こそ学校にアドベンチャー教育を

～心の教育実践プログラム」 二宮 孝 他 著

学事出版 1998年

「みんなでチャレンジ！」	学級活動(2学期8・9月)授業実践プログラム
---------------------	------------------------

(1) 指導過程

本時のねらい	児童生徒一人一人が、互いの考えや個性を尊重し合い、ルールを守りながら、学級集団としての一体感を高めることができるようにする。		
展開	活 動 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評価・資料等
導 入 (10分)	1 ウォーミングアップ (1) 『あいこじゃんけん①』 (2) 『あいこじゃんけん②』 2 本時のねらいの確認 (1) 2学期のスタートにあたっての教師の話(願い)を聞き、本時の活動への興味・関心・意欲を高める。 「みんなでチャレンジ！」 ～〇年〇組の団結力を高めよう～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡単なゲームを通して、身体を使った活動や、意見交換がしやすい雰囲気作りをする。 ○ 2学期に予定されている様々な行事に、学級が一体となって取り組んで欲しいこと、そのためのきっかけ作りをすることについて話をする。 ○ 本時のねらい(テーマ)を板書し、目的意識をもって活動できるようにする。 	【評価1】
展 開 (30分)	3 主活動 (1) 『ビーイング (Being)』 ① クラフト紙(90cm×120cm)2枚をつなぎ合わせたものにモデル(代表児童生徒)が寝て好きなポーズをとり、全員でその周りを太ペンでなぞって「人型」を描く。 ② 一人一人が、この時間の活動で「心がけること」と「されたくないこと」を考え、人型の内側に「心がけること」を、外側に「されたくないこと」を書き込む。 ③ 作り上げたものを「ビーイング」と呼ぶこと、ビーイングはこの時間のルールであることを確認する。 (2) 『トラスト・アップ (Trust Up)』 ① 2～3人で腰を下ろし、つま先を合わせて手をつなぎ、タイミングを合わせて立ち上がる。 ② 4～5人、8人前後、16人前後と増やしながらチャレンジし、最後は全員でチャレンジする。 ③ 自分たちの力で課題解決できるまでチャレンジし続けることを確認する。 ④ 課題達成のために貢献した人に対して賞賛を贈る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデルには学級のリーダー的な児童生徒、または活発に活動する児童生徒がなるのが望ましい。 ○ できるだけ全員で周りをなぞるように、「ペンを次の人に回してみんなで描いて」などと言い添える。 ○ 教師が実際にペンで「心がけること」「されたくないこと」を1つずつ書き込み、書き方のモデルを示す。 ○ 「ビーイング」を黒板に掲示し、書き込まれた「心がけること」「されたくないこと」は、この時間のルールであることを強調する。 ○ すべてのペアができたことを確認してから、4～5人組でチャレンジするよう促す。 ○ 手をつなぐことへの抵抗の強さに応じて、男女混合で行うか男女別で行うか、柔軟に対応する。 ○ 予定の時間になったら、クリアできなくても中断させ、後で時間を作って、自分たちの力でクリアできるまで取組み続けることを伝える。 ○ 貢献した人は何人いてもいいこと、それぞれに拍手を送るよう言い添える。 	◇クラフト紙 【評価2】 【評価3】 【評価4】
ま と め (10分)	4 振り返り (1) 振り返り用紙を用いて、自分の気持ちや気付きなどを振り返る。 (2) 教師のコメントを聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り用紙を配付し、記入の仕方について簡単に説明する。 ○ 教師自身の気付きや感想を話す。 	◇振り返り用紙 【評価5】

(2) 評価計画 (評価の観点)

- 【評価1(関心・意欲・態度)】 ○ 本時のねらいを知り、意欲的に取組もうとしているか。
- 【評価2(思考・判断)】 ○ 自分の本音を書き込むことができたか。
- 【評価3(知識・理解)】 ○ 「ビーイング」はこの時間のルールであることを理解できたか。
- 【評価4(思考・判断)】 ○ 「ビーイング」を守りながら活動に取り組むことができたか。
- 【評価5(思考・判断)】 ○ この時間の自分の言動を客観的に振り返り、活動の意欲の高まりを実感することができたか。

「みんなでチャレンジ！」 振り返り用紙

年 組 番 氏名

1 この時間を振り返って、自分の気持ちに一番近いところに○をつけてください。
また、できるだけ、その理由を に書いてください。

(1) 今日の授業はどうでしたか？

よかった まあまあ
よかった 良かった あまり
よくなかった よくなかった よくなかった

(2) この時間の友だちの意見や行動で、「いいな」と思ったことがあったら書いてください。

(3) 2学期の学級生活・学校生活に、積極的に
取り組もうという気持ちになりましたか？

なった 少し
なった 少なかった あまり
ならなかった ならなかった ならなかった

2 この時間の感想や、気付いたこと・今の気持ちなどを自由にかいて(描いて)ください。